

一般社団法人 日本医学会連合

<2024 年度>

事業報告書

決算報告書

監査報告書

自 2024 年 4月1日

至 2025 年 3月31日

一般社団法人日本医学会連合 2024 年度事業報告

I. 概要

日本医学会連合は定款第 3 条において、「医学に関する科学及び技術の研究促進を図り、医学研究者の倫理行動規範を守り、わが国の医学及び医療の水準の向上に寄与することを目的とする。」と定めている。定款第 4 条において、目的を達成するために以下の事業を実施することとしている。

- (1) 医学及び医療における研究・教育の推進と実践
- (2) 医学及び医療に関する情報の収集と発信及びシンポジウム等による啓発
- (3) 日本医学会総会をはじめとする日本医学会事業の推進
- (4) その他目的達成上必要な事業

定款に定めた目的および事業を達成するため、各種調査、要望書、提言の発信活動等を実施した。

II. 2024 年度に実施した事業

2024 年度に実施した事業は以下のとおりである。

1. 日本医学会連合の活動に関する今後のあり方に関する検討の推進

日本医学会連合の発展や我が国の医学・医療の水準の向上に寄与できる体制づくりとして、ダイバーシティ & インクルージョン (D&I) の推進を検討した。理事選出の際に設置していた特別枠（基礎、社会、臨床内科、臨床外科の部会、それぞれ 1 名）を D&I 枠として、基礎、社会、臨床内科、臨床外科の部会から、それぞれ 2 名を選出する形式とすること、それに伴う役員数の増員にかかる定款変更など役員選挙の実施方法の変更を 2025 年 2 月開催の臨時総会において審議決定した。

2. 研究・教育の推進と実践に関する事業

1) 医学系研究力向上への取組み

医学系の研究力低下に関する課題を把握し、今後の研究力向上に向けて具体的対応策を医学系研究力向上検討ワーキンググループにおいて検討し、「わが国の医学研究力の向上に向けての要望書」をとりまとめた。また、シンポジウム「研究力強化と医師偏在の是正に向けたこれまでの取組みと今後について」（2025 年 4 月 30 日）を計画した。

2) 日本医学会連合 Rising Star リトリートの開催による研究力向上と人材育成

基礎部会 15 学会から新進気鋭の若手研究者（Rising Stars）を招集し、研究発表を通じて相互の交流・連携を深め、研究を推進するため「Deciphering Biomedical Systems- 生物医学研究最先端-」をテーマに第 3 回 Rising Star リトリート（2024 年 6 月 19～21 日、函館）を開催した。

3) 社会部会リトリートの開催による研究力向上と人材育成

社会部会 20 学会に声をかけ、社会医学の将来を担う若手人材の育成を推進するため

「超少子高齢社会における Personal Health Records (PHR)の活用と課題～社会医学の未来に向けて～」をテーマに第3回社会部会リトリート（2025年2月22、23日、東京多摩）を開催した。グループ討論や発表を通して、異分野・他分野の研究者と交流した。

4) ゲノム編集に関する知見の啓発

ゲノム編集とその応用の可能性について正しく理解することを目的に2023年6月に公開したゲノム編集解説ウェブサイトを教材として、高校生のためのウェブサマースクール「ゲノム編集ってなに？」（2024年8月22日）を開催した。

5) 加盟学会間の分野横断的な連携・交流による研究力向上の推進

加盟学会間の分野横断的な連携・交流を深めるため、2024年度は日本生化学会、日本臨床検査医学会、日本公衆衛生学会、日本腎臓学会、日本災害医学会、日本栄養・食糧学会、日本衛生学会による連携フォーラムの開催を支援した。

6) 加盟学会間の領域横断的な活動の支援

加盟学会に広く共通する課題を個別の学会を超えて領域横断的に検討し、その成果を広く発信するため、複数の加盟学会による領域横断的連携活動事業（TEAM事業）の支援を実施した。2024年度は2022年度に採択された3事業「フレイル・ロコモ対策会議（代表学会：日本老年医学会）」、「『領域横断的な肥満症対策の推進に向けたワーキンググループ』活動（代表学会：日本肥満学会）」、「動脈硬化性疾患（ASCVD）予防および治療を目標とし、メタボリックシンドローム・脂質異常症に対して日本食パターンを基にした生活習慣改善の周知普及（代表学会：日本動脈硬化学会）」が事業を終了し、2023年度に採択された3事業「多学会連携による慢性疾患患者の挙児希望を叶えるための横断的指針作成（代表学会：日本産科婦人科学会）」、「加齢性難聴の啓発に基づく健康寿命延伸事業（代表学会：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）」、「脳心血管病予防に関するリスク管理チャートの改訂と発行後の周知普及（代表学会：日本動脈硬化学会）」についても事業終了年度となった。2024年度に採択された3事業「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進（代表学会：日本薬理学会）」、「『いつまでも健康で美味しく食べる』ための、多学会連携による嚥下障害対策の普及活動（代表学会：日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）」、「薬剤の適正使用と『健康』に対する理解促進のための啓発活動（代表学会：日本糖尿病学会）」を支援した。また、2025年度事業の公募要項を検討し、2025年度からは2025年4月に公募を開始するなど、要項を調整した。

7) 専門医等人材育成に関わる検討

専門医等の人材育成に関わる課題について検討し、「医師の地域偏在是正に向けた総合的な対策に関する意見」を厚生労働省に提出した（2024年10月16日）。その後、2024年11月に加盟学会の会員を対象として、「地域医療の向上と研究力の向上に関する意識調査」を実施し、中間報告をとりまとめ、厚生労働省に提出した。また、調査結果をもとに専門医等人材育成検討委員会において、若手メンバーも含めた意見交換を行い、シンポジウム「研究力強化と医師偏在の是正に向けたこれまでの取り組みと今後について」（2025年4月30日）を計画した。

8) 健康医療分野におけるビッグデータの利活用に関する検討

2024 年 1 月にとりまとめた「健康・医療分野におけるビッグデータに関する提言」をもとに、2025 年 2 月に開催した「医療 DX～近未来の医療のあり方を考える～」をテーマとした加盟学会連絡協議会において、健康・医療分野におけるビッグデータの生成や活用のあるべき姿について議論した。そのほか、この提言をもとに関連する学会・機関や内閣府、厚生労働省と意見交換を行った。

9) 新型コロナウイルス感染症による影響の解明に向けた調査研究のさらなる推進

2021 年より厚生労働行政推進調査事業として、新型コロナウイルス感染症による影響の解明に向けた調査研究を進め、2024 年度は基礎・社会・臨床内科・臨床外科の各部会においてこれまで行ってきた研究活動の成果をより高めるために必要な研究を進めた。

10) 国内学術団体との連携

- ① 日本専門医機構、日本医療安全調査機構、日本医学教育評価機構、社会医学系専門医協会に社員として参加した。
- ② 日本学術会議の協力学術研究団体として「生命科学系の学協会連合体との円卓会議」に参加し、連携を深めた。
- ③ 生物科学学会連合から提案された「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」に賛同し、多数の学術団体が連名して、国に対して要望書を提出した。
- ④ 動物実験関係者連絡協議会からの提案により、動物の愛護及び管理に関する法律の改正の動きに対する要望について検討した。
- ⑤ 日本医療研究開発機構（AMED）からの提案により、AMED、日本医学会連合、日本脳科学関連学会連合、生物科学学会連合が共催し、共催研修「性差を考慮した研究開発の推進～健康・医療分野における研究開発において、性差の視点を組み込む～」（2025 年 1 月 28 日）を開催した。

11) 海外学術団体との交流

Formosan Medical Association（台湾）第 117 回学術講演会（2024 年 11 月 9、10 日）に高橋雅英副会長が出席し、基調講演した。

3. 医学・医療に関する情報発信とシンポジウム等の開催による啓発

1) 研究倫理に関する情報発信と啓発

日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学会連合利益相反委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会が合同で「変貌を遂げる研究倫理の意味合いとその啓発」をテーマに第 8 回研究倫理教育研修会（2024 年 5 月 7 日）を開催した。

2) 診療ガイドラインの質及び信頼性の確保と普及・啓発の仕組み作り

- ① 第 2 回診療ガイドライン統括委員長会議（2024 年 9 月 6 日）を開催した。加盟学会 85 学会、非加盟学会 88 学会、173 学会から約 270 名が参加し、意見交換した。
- ② オンライン診療に関する研究（遠隔医療推進のための課題抽出とエビデンス構築のための方向性の提示に資する研究）において、患者・健常者および医療従事者のそれぞれに対して実施した、オンライン診療についての大規模アンケート調査結果の論文が「Issues in the Adoption of Online Medical Care: Cross-Sectional

Questionnaire Survey」として Journal of Medical Internet Research 誌に採択された。

3) ダイバーシティ & インクルージョン (D&I) の推進

各学会の D&I に関する取り組みを紹介するサイトを作成し、公開した。また、加盟学会を対象として継続的に実施している「男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査」を行った。

4) 医師の働き方改革への対応

加盟学会に対して労働環境に関する事前アンケート調査を実施し、調査結果を踏まえてシンポジウム「医師の働き方改革元年に見えてきた問題点」(2025 年 3 月 4 日)を開催した。シンポジウムを踏まえたアンケート調査を実施することを検討した。

5) 日本医学会連合のウェブサイトリニューアルと積極的な情報提供の実施

公式ウェブサイトのリニューアルに向けて検討し、2025 年 3 月 24 日にリニューアルを実施した。

6) 医薬品安定供給に関する啓発

2024 年 1 月に実施した「医薬品安定供給に関するアンケート」調査結果をもとに、「医薬品安定供給に関する提言」をとりまとめ、厚生労働省に提出した(2024 年 6 月 12 日)。

4. 日本医学会総会をはじめとする日本医学会事業の推進への協力

2027 年 4 月開催予定の第 32 回日本医学会総会の準備に協力した。また、日本医学会の事業推進に協力した。

III. 組織の状況

1. 会員数

144 学会(2025 年 3 月 31 日)

2. 2024 年度新規入会状況

1 学会 日本甲状腺学会

3. 総会開催

2024 年 6 月 14 日に 2024 年度定時総会を開催し、2023 年度事業報告及び決算、会費徴収等を審議決定した。2025 年 2 月 21 日に臨時総会を開催し、新規加盟学会、定款変更、次期役員選任の手順等を審議決定した。

4. 役員

2025 年 3 月 5 日付けで宮園浩平理事が辞任し、理事 23 名、監事 4 名となった。

貸借対照表
(2025年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	127,092,723	167,851,658	△ 40,758,935
仮払金	12,208	0	12,208
前払費用	246,281	298,124	△ 51,843
未収入金	3,659,139	5,269,855	△ 1,610,716
流動資産合計	131,010,351	173,419,637	△ 42,409,286
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
受取研究費資金	0	0	0
特定資産計	0	0	0
(2) その他の固定資産			
工具器具備品		327,304	
減価償却累計額	0	△ 327,303	1
預託金	0	0	0
その他の固定資産計	0	1	△ 1
固定資産合計	0	1	△ 1
資 産 合 計	131,010,351	173,419,638	△ 42,409,287
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	6,172,110	23,051,982	△ 16,879,872
預り金	712,367	664,572	47,795
流動負債合計	6,884,477	23,716,554	△ 16,832,077
2. 固定負債			
引当金	0	0	0
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	6,884,477	23,716,554	△ 16,832,077
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	124,125,874	149,703,084	△ 25,577,210
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	124,125,874	149,703,084	△ 25,577,210
負債及び正味財産合計	131,010,351	173,419,638	△ 42,409,287

2024年度年度損益計算書
(正味財産増減計算書)

一 般 会 計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1、経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費	61,058,800	60,785,700	273,100
受取補助金	400,000	16,020,000	△ 15,620,000
受取助成金	0	0	0
雑収益	594,531	108,022	486,509
受取利息	83,486	1,765	81,721
雑収益	511,045	106,257	404,788
経常収益計	62,053,331	76,913,722	△ 14,860,391
(2)経常費用			
事業費	56,318,250	45,304,676	11,013,574
旅費交通費	2,146,478	1,567,620	578,858
諸謝金	391,000	405,800	△ 14,800
助成費	8,759,370	8,430,145	329,225
賃借料	2,957,658	1,155,712	1,801,946
会議費	19,403	50,026	△ 30,623
通信運搬費	420,019	718,033	△ 298,014
消耗品費	24,966	13,942	11,024
印刷製本費	125,125	2,287,505	△ 2,162,380
図書・文献購入費	515,327	81,422	433,905
人件費	19,116,560	12,893,554	6,223,006
委託費	21,792,364	17,552,882	4,239,482
支払手数料	30,580	63,635	△ 33,055
租税公課	19,400	84,400	△ 65,000
雑費(予備費)	0	0	0
管理費	31,312,290	35,356,701	△ 4,044,411
旅費交通費	1,241,564	1,790,290	△ 548,726
諸謝金	0	2,596,768	△ 2,596,768
保険料	23,495	21,820	1,675
賃借料	2,910,410	2,900,330	10,080
会議費	29,643	42,578	△ 12,935
通信運搬費	2,375,713	2,439,004	△ 63,291
消耗品費	1,517,779	1,866,052	△ 348,273
消耗什器備品費	688,900	455,100	233,800
リース料	935,880	935,880	0
修繕費	156,929	373,056	△ 216,127
印刷製本費	24,453	47,358	△ 22,905
図書・文献購入費	66,520	80,180	△ 13,660
人件費	13,069,814	12,893,558	176,256
教育訓練費	96,800	97,900	△ 1,100
委託費	3,264,671	3,454,304	△ 189,633
諸会費	4,400,000	4,400,000	0
渉外費	0	558,080	△ 558,080
支払手数料	416,935	309,475	107,460
租税公課	92,784	94,968	△ 2,184
雑費(予備費)	0	0	0
経常費用計	87,630,540	80,661,377	6,969,163
当期経常増減額	△ 25,577,209	△ 3,747,655	△ 21,829,554
2、経常外増減の部			
(1)経常外収益	0	0	0
(2)経常外費用	1	0	1
固定資産除去損	1	0	1
当期経常外増減額	△ 1	0	△ 1
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 25,577,210	△ 3,747,655	△ 21,829,555
一般正味財産期首残高	149,703,084	153,450,739	△ 3,747,655
一般正味財産期末残高	124,125,874	149,703,084	△ 25,577,210
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	124,125,874	149,703,084	△ 25,577,210

特 別 会 計（厚生労働省研究費24HA2015）

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1、経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取研究費	5,000,000	0	5,000,000
直接経費	4,600,000	0	4,600,000
間接経費	400,000	0	400,000
雑収入	3,307		3,307
受取利息	3,307		3,307
経常収益計	5,003,307	0	5,003,307
(2) 経常費用			
研究費支出	5,002,802	0	
直接経費	4,602,802	0	4,602,802
間接経費	400,000	0	400,000
租税公課	505		505
経常費用計	5,003,307	0	5,003,307
当期経常増減額	0	0	0
2、経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

- ・固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。
工具器具備品…定率法

(2) 消費税等の会計処理

- ・消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 特定資産の当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
受取研究費資金	0	5,000,000	5,000,000	0
合計	0	5,000,000	5,000,000	0

3. 担保に供している資産

該当なし

4. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高および当該債権の当期末残高

貸倒引当金の計上をしていない

5. 保証債務等の偶発債務

該当なし

6. 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価および評価損益

該当なし

7. 補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額および残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)	厚生労働省	0	5,000,000	5,000,000	0	指定正味財産

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当なし

9. 関連当事者との取引の内容

該当なし

10. 重要な後発事象

該当なし

附属明細書

1. 特定資産の明細
財務諸表の注記に記載のため省略
2. 引当金の明細
該当なし

監査報告書

2025 年 6 月 13 日

一般社団法人日本医学会連合
会長 門脇 孝 殿

一般社団法人 日本医学会連合

監事 北 潔

監事 秋葉 澄伯

監事 矢富 裕

監事 森 正樹

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの事業年度における一般社団法人日本医学会連合の事業報告、計算書類、これらの附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の状況等の報告を受け、随時説明を求めました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。
- (4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しています。

以上